地域を守る！	▶普及啓発・人材育成	レジリエンス人材を養成する

039 産官学民が連携した全世代型防災教育による「災害に強い人づくり、まちづくり」

取組主体		
松山防災リーダー育成センター		
従業員数	想定災害	実施地域
４人	全般	愛媛県

・愛媛県松山市内の全市民を対象とした全世代型防災教育を行い、受講者の年代などに応じたプログラムを提供する。防災リーダーを育成し、防災教育を次の世代へと継承する仕組みをつくっている。

1 取組の特徴（はじめたきっかけ、狙い、効果、工夫した点、苦労した点）

松山市民 50 万人全員を対象とした継続的・自律的な防災教育活動

・松山防災リーダー育成センターは、愛媛大学防災情報研究センターと松山市防災危機管理課が連携して組織的な防災教育活動を行う。愛媛県松山市内の全市民を対象とした「全世代型防災教育」を推進する団体である。

・本センターにおける取組の最大の特徴は、継続的、自律的であり、活動が年々大きく展開する仕組みを立ち上げたことにある。また、対象規模も大きく、松山市民 50 万人を 1 人残らず教育対象にしている。小学生から防災教育を開始し、中学、高校と活動を継続する。そして、大学生になったら防災リーダークラブ員として活動する。卒業後は、教員、企業、役所、自営業その他として防災士活動を継続する。年々、発展する組織づくりを行っている。

・松山市内の小学５年生から高校３年生までの 5000 名が参加しているジュニア防災リーダークラブ員を対象に、防災教育を行う。例えば、マイタイムライン（大雨や台風での逃げ遅れをふせぐために、自身や家族がとる防災行動を時系列的に整理したもの）講座や防災キャンプ等である。また、大学生対象の防災リーダークラブ 100 名が地域防災、学校防災教育などで積極的に活動している。加えて、7000 名の防災士が地域防災活動を展開する。企業 BCP、外国人向け防災教育、福祉関係施設対象の防災活動も組織的に行っている。

防災教育の実践の様子

・松山防災リーダー育成センターは、平成 30 年７月豪雨災害の発生を受けて、松山市民 50 万人の命を守るために設置された。具体的な活動内容は、以下の通りであり、全市民を対象としている。

- 学校防災教育：小中学生を対象とした防災リーダークラブを設置し、防災キャンプや防災まちあるき等を実践
- 地域防災教育：地域防災士研修プログラムを通じて、地域防災や学校防災の先頭に立つ指導者を育成
- 産業界 BCP：BCP 策定推進のための研修プログラム
- 福祉関係施設防災力強化：福祉関係者とともに防災に関する研修プログラムを開発
- 外国人向け防災教育：愛媛大学に在籍する留学生を中心に、外国人向けの防災教育活動を推進

・特に、小中高生を対象としてジュニア防災リーダークラブを設置し、学校教員、大学生防災士、地域の防災士などが連携して、膨大な規模での防災教育活動を展開している。

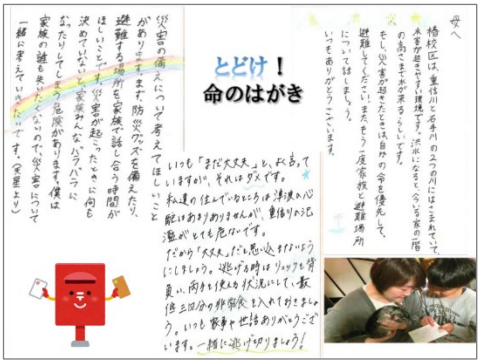
・本取組の特長である継続性と自律性の原動力は、児童生徒と大学生の人間的な成長にある。児童生徒の協調性、積極性、行動力、発表力などが伸びるとともに、指導している大学生の防災リーダーの指導力が大きく伸びている。

国土強靭化

・地域防災教育については、防災士養成講座を毎年 4 回開講している。その結果、松山市の 90 人に 1 人が防災士を取得し、同割合は全国一となっている。また、防災士を対象とした講座として、松山市 41 地区の自主防災会議の幹部メンバーとして年間 2000 回以上、延べ参加人数 7 万人以上を数える避難訓練や避難所運営などの各種防災プログラムを指導し、実践力の向上を図っている。

2 取組の平時における利活用の状況や効果

・中学 1 年生を対象に実施している「マイタイムライン作成講座」では、家族などに向けた「とどけ、命のはがきプロジェクト」を実施している。それまでに学んだ災害の危険性や避難の重要性のほか、大切な人の命を守りたいという気持ちをはがきに書いて、家族や友人に送ることで、子どもたちが発信者となり、「災害での逃げ遅れゼロ」を目指す。こうした取組を通じて、家族のつながりがより強くなっている。また、地域防災士などと連携したジュニア防災リーダーの防災街歩きプログラムなどの防災実践を通して、地域のネットワークが強化されている。



「とどけ、命のはがきプロジェクト」

・本取組は、令和 3 年度と 4 年度で第 26 回(令和 3 年度)防災まちづくり大賞(消防庁長官賞)、第 8 回ジャパン・レジリエンス・アワード(強靭化大賞)(準グランプリ)、令和 3 年度 1.17 防災未来賞「ぼうさい甲子園」ぼうさい大賞、令和 4 年度 1.17 防災未来賞「ぼうさい甲子園」優秀賞や愛媛県知事表彰など、計 13 回の表彰を受けている。

3 現状の課題・今後の展開等

・今後、大学の防災リーダークラブの卒業生が学校教員や地域企業などに多く就職する。これに伴い、防災教育活動の内容を濃いものに、より多くの人たちが参加できるものとしていく。

4 周囲の声

・高校時代に防災活動に熱心に取り組んだ。その結果防災士の資格も取得できた。この活動を継続するために、松山市内の大学に入学し、学生防災リーダーとして活躍することにした。（高校生）

・活動を通して地域の防災に目が向いた。そのため、高校入学時は卒業後に大都市の会社に就職したいと思っていたが、松山市内の会社に就職し、家族や地域の安全安心に貢献することにした。（高校生）

・防災クラブに携わることにより発展途上国の防災問題や「女性視点」での災害時対応に関心が向いた。また、その課題に取り組める大学を志望し、合格できた。大学入学後は、世界と女性視点の防災に目を向けて学びたい。（高校生）

・大学 4 年間の防災活動を通して、防災知識と実践力が身についた。卒業後は教員として、学校防災、地域防災に貢献したい。（大学生）

担当者の声		
・松山市の 50 万市民一人一人を対象とした継続性と自律性に富む極めて画期的な防災教育への取組です。		
問合せ先	動画	サイト URL
愛媛大学防災情報研究センター TEL：089-927-8141　FAX：089-927-8141　E-Mail：nakajima@cee.ehime-u.ac.jp		